

次期太陽観測衛星計画 SOLAR-C

SOLAR-C: The Next Solar Observing Satellite

原 弘久 [1]; SOLAR-C ワーキンググループ 常田 佐久 [2]
Hirohisa Hara[1]; Saku Tsuneta SOLAR-C Working Group[2]

[1] 国立天文台; [2] -
[1] NAOJ/NINS; [2] -

<http://hinode.nao.ac.jp/SOLAR-C/>

JAXA SOLAR-C ワーキンググループは、軌道上にある「ひので」につづく次期太陽観測衛星計画の検討を進めている。現在2案(A案、B案)が並行して検討されている。A案は、黄道面を離脱した衛星により、太陽の極領域を観測する。A案では、日震学的観測や磁場観測を黄道面を離れた新たな視点から実施して、太陽ダイナモや太陽内部のダイナミクスを明らかにすることが主要なターゲットとなる。B案は、太陽同期軌道もしくは静止軌道から、分光性能や偏光分光性能を大幅に高めた観測による高空間分解能ミッションである。これらの新しい性能で、太陽大気加熱やダイナミクスの素過程を探索する。昨年の11月に SOLAR-C Science Definition Meeting が JAXA と ESA の支援と多くの海外研究者の参加のもと開催され、SOLAR-C は世界中の太陽物理学者から大いに期待されている。SOLAR-C ワーキンググループは、2010年代半ばの衛星打ち上げ実現を希望している。